

私の一文字



WIL 共同創業者兼 CEO
伊佐山 元

2019年度より第1期ノミネートメンバー、2021年4月経済同友会入会、21年度成長戦略評価・実行委員会および企業経営委員会副委員長。



力を合わせて「興す」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月から第1期ノミネートメンバーだった会員経営者の6人の皆さまにお話を伺います。初回は伊佐山元 WIL 共同創業者兼 CEO にご登場いただきました。



岡西 「興」は「同」という漢字の周りに四つの手があることを示しています。同はモノの例えになっており、四つの手でこのモノをみんなで持ち上げる、力を合わせて何かを盛り上げるといふ意味だといわれています。

伊佐山 今の仕事はモノを興す、人を応援する仕事です。興し方もいろいろある中で、さまざまな人の力を借りながら興すというのが、この「興」の字の力強さ、前向きな感じだと思って選びました。私の会社にも“Win as a Team”という社訓のようなものがあるのですが、要は人と人が力を合わせて勝ちましょうということです。そこにすごくこだわっているの、岡西さんの説明をうれしく感じました。

僕たちが応援する人たちは起業家だけでなく、大企業の社員、学校の先生やお医者さんら、今までと違うやり方で仕事をやってみようと考えている人も含まれます。世の中で新しいことに挑戦し、問題を解決したいとしている人たちも「起業家精神を持っている人」といえます。そういう人が事業を興したいときに、日本の会社が海外に行くときにぶつかる言葉の壁や文化の壁を乗り越えるための支援に今、力を入れています。

起業家精神を持っている人を突き詰めていくと、原点は全て一緒です。自分の身の回りの不都合や不便性に興味を

持つことから始まります。解決策を考えるうちに、人はワクワクし、興奮してくる。興に入るという話です。興という漢字には、起業家精神を持つ人が経る起業のプロセス全てが入っているのではないのでしょうか。私が新卒で就職した日本興業銀行にも興の字が入っているのですが、その意味でもこの漢字にはすごく思い入れがあります。社会人になったときの自分の原点でもある漢字です。

岡西 御社を興したときや、ベンチャー企業を興すことを応援する際に何か意識されていることはありますか。

伊佐山 すごくこだわっているのは、その事業が公共性を持っているか、社会にとって役立つことをやっているかどうかです。会社を興す動機は、公に対してきちんと資するようなものがないと最終的には長続きもしないし、社会にとってそんなに価値のあるものにはならないと思っています。私がやっている活動も、ビジネスである以上はきちんとお金が回ることはすごく大事ですが、お金をもらった結果、成し遂げたことが社会に対してポジティブなのかどうかは必ず問うようにしています。

岡西 経済同友会には今年度からご入会されましたが、活動の期待や抱負などをお聞かせいただけますか。

伊佐山 経済同友会は他の経済団体よりももう少しエッジの立った政策を提言できる団体だと僕は思っています。だからこそ、われわれのいろいろな活動を通じてこういう未来にしたいという政策提言をもっと前面に推していく活動ができればすごくいいな、と個人的には考えています。

書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

